

山武農業事務所

普及だより

山武農業事務所

山武の



山武農林業振興普及協議会

〒283-0006 東金市東新宿1-11

☎ 0475-54-0226 FAX 52-7914

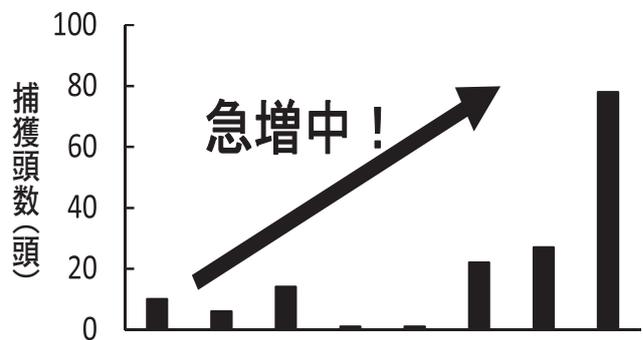
ホームページ <https://www.pref.chiba.lg.jp/ap-sanbu/index.html>

イノシシから農作物を守れ！

～住民の意識向上から対策へ～



捕獲されたイノシシ



H22 H23 H24 H25 H26 H27 H28 H29
山武管内のイノシシ捕獲頭数の変化



イノシシ対策視察研修会



箱ワナ設置の様子

今後も、地域住民が一体となり、さらに効果的な対策に取り組んでいきます。

また、今年度から県の「獣害と戦う農村集落づくり事業」に採択され、イノシシの行動を自動撮影するセンサーカメラを導入し、出没を監視しています。

また、今年度から県の「獣害と戦う農村集落づくり事業」に採択され、イノシシの行動を自動撮影するセンサーカメラを導入し、出没を監視しています。

また、今年度から県の「獣害と戦う農村集落づくり事業」に採択され、イノシシの行動を自動撮影するセンサーカメラを導入し、出没を監視しています。

また、今年度から県の「獣害と戦う農村集落づくり事業」に採択され、イノシシの行動を自動撮影するセンサーカメラを導入し、出没を監視しています。

近年、山武管内の山間地域では、イノシシによる農作物被害や目撃情報が急増しており、日常生活や農産物生産に対する住民の危機感が高まっています。

山武市中津田集落では、周辺地域まで水稲、トウモロコシ等に被害が発生している状況から、さらなる被害の拡大は時間の問題と捉え、対策に乗り出しました。

平成28年に獣害対策の先進地である市原市の視察や、平成29年にワナ免許取得(4名)等を通して、集落全体の獣害対策への意識向上を図るとともに、箱ワナやくくりワナの設置を進めました。

また、今年度から県の「獣害と戦う農村集落づくり事業」に採択され、イノシシの行動を自動撮影するセンサーカメラを導入し、出没を監視しています。

ちばGAP認証 取得者の紹介

横芝光町の(株)アグリスリーでは、昨年2月に水稲部門で「ちばGAP認証」を取得しました。認証申請から現在までの取り組みについて、代表取締役 實川勝之さんじつかわかつゆきに、お聞きしました。

▽認証までの課題は？

帳簿等については、概ね整備していたため、それほど大変ではなかったのですが、燃料タンクに防油堤が必要なのが分かり、費用をかけて整備しました。今回の申請を通じて、消防法等、様々な法規制を農家が熟知することは難しいと感じました。建設業など関連業界へも法令を周知して欲しいと思います。

▽ちばGAPに取り組んだ効果は？

社内の情報共有が進みました。

これまでノートに記録していた情報をスマートフォンで見られるようにしました。当社では、数百筆の水田を耕作しています。が、新入社員でも水田の場所が分かりやすくなりました。また、整理整頓により、仕事が滞ることがなくなり、社員のためにも良かったと思います。

取引先からGAPを求められることは特にありませんが、GAPは、自分たちのメリットになると考えているので、継続して取り組んでいきたいです。



燃料タンクの防油堤

整理された農薬保管庫

※農業事務所ではGAPに関するサポートをしています。関心のある方は、お気軽に御相談ください。

農家レストラン 新規オープン!

山武市のソムリエファームの渡邊陽子さんわたなべようこを紹介します。

陽子さんは、調理師専門学校を卒業後、都内レストランを経てフランスにて4年間修行。平成29年1月に帰国し、両親と兄が営むソムリエファームに加わりました。

ソムリエファームでは、年間60種類以上の野菜を栽培し、様々な野菜の収穫体験や自家野菜を使用したピザ作りなど食育活動に力を入れています。

陽子さんの就農により、ソムリエファームのレストラン部門「Ta cachette」(タ・カシエット・フランス語で、あなたの隠れ家)を平成30年4月に新規オープン。地域の採れたて新鮮野菜をふんだんに使用した、日本にいなながら海外旅行気分が味

わえるトリップランチや、野菜が主役のおいしい料理が週替わりで楽しめます。

また、今まで規格外で廃棄していた野菜をドレッシングや乾燥野菜に加工するなど、六次産業化やHACCPにも積極的に取り組んでいます。

新しい取組に積極的に挑戦する陽子さん、ソムリエファームの今後の飛躍が期待されます。



レストラン部門「タ・カシエット」の陽子さん

冬期から植付前の ジャンボタニシ対策

▽寒さには弱い

ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）は南米原産の貝で、冬の寒さにより、水田では9割以上が死滅します。一方、排水路では7割程度しか死滅しません。さらに、水温が高い場合は大半が越冬できます。

明渠や暗渠により田面を乾かし、寒さにさらすことで、越冬する貝を減らすことができます。
▽ロータリー耕で破碎

水田内のジャンボタニシは、地表から6cm以内の土中で越冬します。ロータリー耕により、大きさが2cm以上の貝を減らすことができます。土壌が固いほど貝殻を逃がさずに砕くことができるので、やはり田面を乾かすことが重要です。回転数を上げ、作業速度を遅くすると効果が高まります。

▽通水前にネットを設置

用水路やパイプラインの水源池等で越冬した貝は、用水とともに水田に浸入します。通水前から、水口にネットを設置して侵入を防ぎましょう。ゴミ等が溜まることがあるので、ネットは大きめにし、交換用のネットを用意するなどして、続けることが大切です。

▽田面の均平化と浅水管理

ジャンボタニシの水稲被害は、水田内での深水部分で大きいため、浅水管理により抑止できます。昨年、被害の大きかった箇所の均平に努めましょう。



用水ますのネット設置例

落花生「Qなつつ」 デビュー!

千葉県は、国産落花生の約8割を生産する日本一の産地です。このたび、幅広い世代に落花生を食べていただけるような新品种を開発しました（品種名「千葉P114号」）。公募の結果、愛称は「Q（キュー）なつつ」に決定しました。「Qなつつ」は、平成30年10月中旬から販売しています。県では、「Qなつつ」のデビューをきっかけに、多くの方々に県産落花生に親しんでいただけるよう、PRに取り組んでいきます。

▽「Qなつつ」の特徴は？

- はっきりした甘み
- あっさりした食べやすい味
- 気品がある白い莢
- 煎り莢に向く
- 収量が多い

▽愛称「Qなつつ」とは？

これまでのピーナッツを超える味リアルファベットの並び順で、『P』の次が『Q』で「Qなつつ」という意味を込めています。

管内での販売店はリーフレツトに記載されています。

また、県内の採種ほど生産した種子は自家増殖用として、毎年秋頃に各農協、落花生商工協同組合加入業者を通して購入の予約を行っています。

「Qなつつ」の特徴

- ※ はっきりした甘みで、食べやすい味
- ※ 噛み締めると甘さが口の中に広がります。
- ※ 気品がある白い莢

はじめて「Qなつつ」です！

甘くておいしい落花生を目指して、平成10年から開発を始め、今年ついにデビューとなりました。実際に食べて、その甘さを感じてください。みなさまに喜んでいただく落花生になれば幸いです！

材料名	分量
落花生	40g
塩	10g
砂糖	10g
食塩相当量	1.6g

「Qなつつ」リーフレット (県HPより)

平成30年度認証 指導農業者・農業士紹介

本年度、新たに指導農業者、農業士に認証された方々を御紹介します。今後益々の御活躍が期待されます。

▽指導農業者

石橋 芳明氏



・山武市
・施設野菜
(イチゴ)

観光いちご経営で精力的に活躍しています。

小山 和典氏



・山武市
・施設野菜
(イチゴ、メロン)

観光いちご園とメロンの直売経営に取り組んでいます。

▽農業士

鈴木 浩章氏



・山武市
・水稲

ICT機器を含む大型機械を駆使した水稲経営をしています。

片岡 健一氏



・大網白里市
・施設野菜
(キュウリ、アスパラガス)

パラガス+露地野菜+水稲アスパラガス経営を独力で確立しています。

川島 弘樹氏



・横芝光町
・露地野菜
(ネギ他)
+水稲

ネギ栽培技術を磨く地域の模範です。

平成31年度 「農業経営体育成 セミナー」の参加 者を募集します

農業事務所では、新しく農業を始めた皆さんを対象に、農業経営に必要な基礎的・専門的な知識・技術を身につけることと、同世代のネットワークづくりを目的にセミナーを開催します。是非御参加ください。

▽対象

新規に就農した概ね45歳までの農業者

▽内容

農業の知識・技術に関する講義及び現地視察等

▽開催場所

山武農業事務所及び山武管内または管外の農業先進地等

▽研修期間

平成31年5月から3年間、年7回程度

▽参加費

原則として無料

▽申込み先

山武農業事務所 改良普及課
Tel 0475(54)0226

飼料用米等の推進・農地 中間管理事業のお知らせ

▽飼料用米等に取組みましょう
米の生産量が需要を上回り、生産過剰になると、米価下落が懸念されます。米価の安定には、31年産も引き続き、米の生産調整が必要です。

そのため、国・県・市町の助成があり、米価の影響を受けず、安定した収入を見込むことができる飼料用米・加工用米の取組をお願いします。

▽農地中間管理事業

―農地の保全にお困りの方は―
御相談ください―

農業からリタイアを考えている方、相続した農地の管理に困っている方、水田をやめて畑に専念したい方など、貸したい農地がある方は、公益社団法人千葉県園芸協会又は市町等に御相談ください。

(公社) 千葉県園芸協会

Tel 070(3139)8341
Tel 080(4356)4972